

開催日時	令和元年 6 月 21 日 金曜日 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
場所	大阪府庁 災害対策本部会議室

（大阪市 中村氏）

発言内容

住之江区の中村です。まず事務局、私第 1 回目の高潮専門部会の際に傍聴席にいたんですけども、それが 2 回目はホームページに載っているのですが、1 回目は全然載せておられません。1 回目に言ったのは、この前の大阪北部地震でブロック塀が倒れて、子供が死んだと。これは大阪府の防災意識がおかしいのと違うかということ、あるいは関空の何ですか、被災も含めて発言させてもらったと思うんですが、まず防ぐという感覚がなく、自分の身を守るために逃げる施策を考えたらいいと。

今回もいろいろ見ていたら、どこを破堤させて、どんな避難マップをつくったらいいのか。水防法に言われているようなものを成果物にしようとしているように感じられるわけですけども、その河川なんかは何年に一回の氾濫、あるいは越流だと思うんです。先ほど部会長さんがおっしゃったように、今温暖化がどんどん進んできて、気象配置が変わってきていると。

そうしますと、こういう台風がどのぐらいの確率で起きるか知りませんがね。その別にこれが大きいものでなくても、先ほどもちょっとありましたけど、今ある防潮堤だとか 10 センチ、20 センチ越流するような台風が来たら、これが毎年来たら、1 年も何回も来るわけです。こういうものと洪水と同じレベルで議論されるのは、僕は非常に住民として怒りを感じるところです。

前回もちょっと長くなりますけど説明すると、前回に御質問した内容で、今回全然その資料が載っていないんですけども、ここの前回の進入経路の 30 度の、今私持っているんだけど、30 度のときなんか淀川だとか、大阪港内に非常に赤い水位があらわれていると。これがなぜ起きているかちゃんと分析してほしいと。

要は防ごうと思ったら、こういう事象が起きるものはどんなときに起きてきているんだと。その分析を十分していただいて、それが 40 度のほうは大きい偏差が出るかもわからないけども、例えば、30 度のほうは今の天保山だとか市内のほうに大きな影響が出るというのだったらね。40 度も検討するけど、30 度もしますよというような分析をしていただかないと、先ほど言いましたように、何が何でも逃げたらいいだろうと言うんじや僕は大阪の住民として、非常に怒りを感じます。

だからまず 30 度のときのこういう図がなぜ起きたかというやつをやっぱりデータを示して、懇切丁寧に教えていただくべきだと思うんです。それが、1 回、2 回が終わったらもう知らんぞというのは、非常に僕は問題があるんじゃないか。

今回の資料では、たくさんあってまとめ切らん。まず毛馬のほうの 330 トンの問題は、大川は出水時間もずれがあるというのはわかりますけども、むしろその寝屋川水系が出るのは 330 トン以上は、何千トンの水が大川に流れてきているわけですね、木津川とか、安治川に。それを高潮に三大水門の上流なのか下流なのか、私知らないけどもね。そういうときにそれがどんな問題を引き起こすねんと。むしろ大阪市内から出てくる部分がこう

して、ちょっとこれ私にはすぐ理解できなくて申しわけない。その29ページのシミュレーションの結果からいくと、この台風のシミュレーションのモデルは全部、台風が来るときは風台風になっちゃっていると。こういう理解をするわけですか。

さっきの動画のシミュレーションを見てたら、赤色の画面の一緒に何か上がってきたように思われるんですけどもね。それとこのシミュレーションの答えはどんな関係になっているか、さっぱりわからないので、やはりこの辺のデータもきちんとデータとして整理したものを我々、住民にも教えていただきたいと思います。

何か答えだけ出て、これで安全ですよと言ったらそれでまあええじゃないですかというお茶を濁すようなのは、非常に私としては不安がますます募るばかりだということで、この問題でやはり市内の大川に市域にふった水がどういう形で出ていくのかも含めて、その水門の影響が本当に高潮が来たときに閉鎖できるんかとか。それで先ほど来からあるように、ケースとしてはないかもわからないけど、考え得る前線の刺激がこういうことが重なり合ったら危険が出る。その例が28ページですわ。これ先ほど大石委員からあったんですけど、統計処理するからね。木津川のあれも見れば、5時間前のものは無視しといてもいいよとなってますけども、これが2回か3回か知りませんがね。この雨の量はどんなもんだったんだと。

私もこの風台風みたいなものが来るとは信じられないんですけど、もうすぐ風台風というのは本当に、こういうときに起きるんだよということを御説明いただいて、理解できれば逆に5時間前に起きている実績があるわけですからね。こういうものに対して、どう対応していくんだと。このときは本当に安全なんだということで突き詰めた議論をしていかないと、何か十羽ひとからげでまあ統計処理してみたら、3時間前に出る分は大丈夫ですと、ああいうこっちゃ7時間やから大前提ですというような議論では僕は非常に、何回も言いますが、ますます不安をあおるだけのデータになるんじゃないかなと。

ですから、先ほど冒頭言いましたように、まずこういう台風が来たときにどう守っていったらいいんだという視点で、その対策をつくるためにはどういふシミュレーションしたらいいんだと。それでそのことをちょっと長くなって申しわけないけど、言いますとですね。ここの先ほどもあったんですけども、何ページですかね。ここの12ページのとこなんだけども、高潮水系と書いて、このページで潮位の平均分布を出しますと。その潮位なんてものはね、皆さん先生方、よく御存じ、その吸いあげによる1メートル前後のものと、残りの3メートルか4メートルか知りませんがね。吹き寄せによってこの潮位偏差が起きているわけです。ならその吹き寄せの方向はどこなんだと。それがどのまちにどれだけ、どういう影響をするんだと。あるいは、それを防ぐためにはどんなことが考えられるんだと。そこを十分議論してもらって、それがこんな問題でなかなかできないとか、あるいはそれをするには時間がかかるとか。その上で、初めて今言った避難マップをつくって、当分は仕方がないから逃げてくださいよというのが私は行政の責任ではないかなと思います。よろしくお願いします。